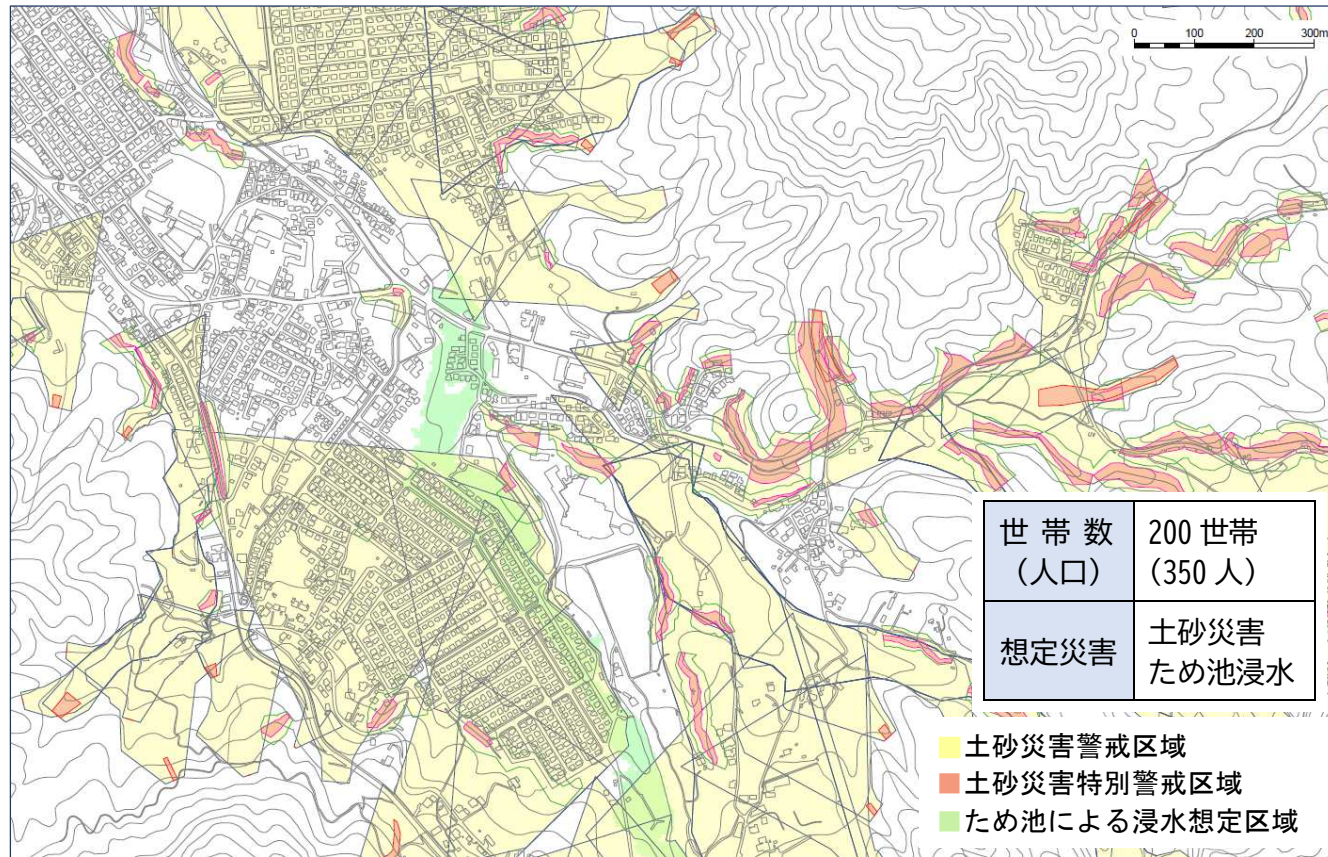


◆組織の基本情報



◆避難の呼びかけ体制（抜粋）

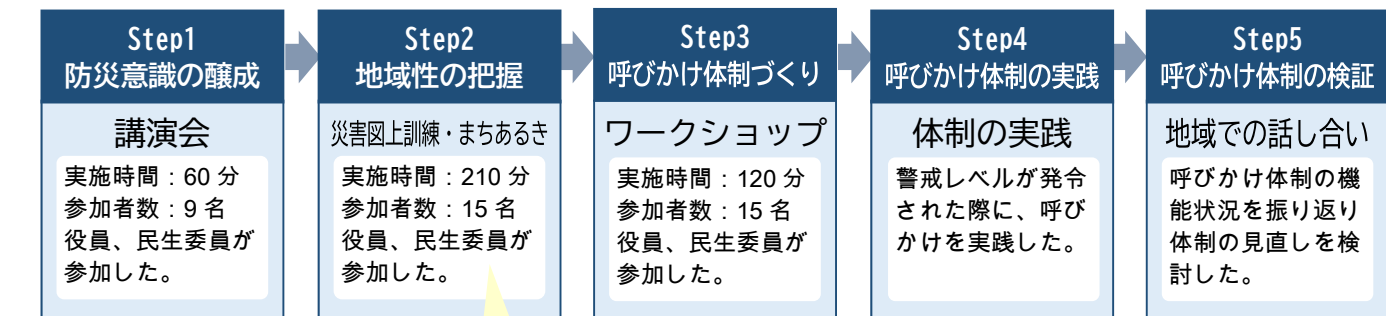
避難情報の入手方法	呉市防災メール／テレビ／インターネット	
呼びかけ	順番	会長⇒副会長・役員⇒班長⇒班員
	担当者不在時の対応	会長不在⇒副会長／役員不在⇒他役員／班長不在⇒役員 が代行
	タイミング	警戒レベル3
	範囲	全世帯
	優先度	要配慮者
	方法	電話（携帯電話を含む）
	内容	一緒に避難をしましょう。
完了確認	班員⇒班長⇒副会長・役員⇒会長（呼びかけの順番と逆順に報告）	
他団体との連携	民生委員	

◆呼びかけ体制づくりに向けた取組

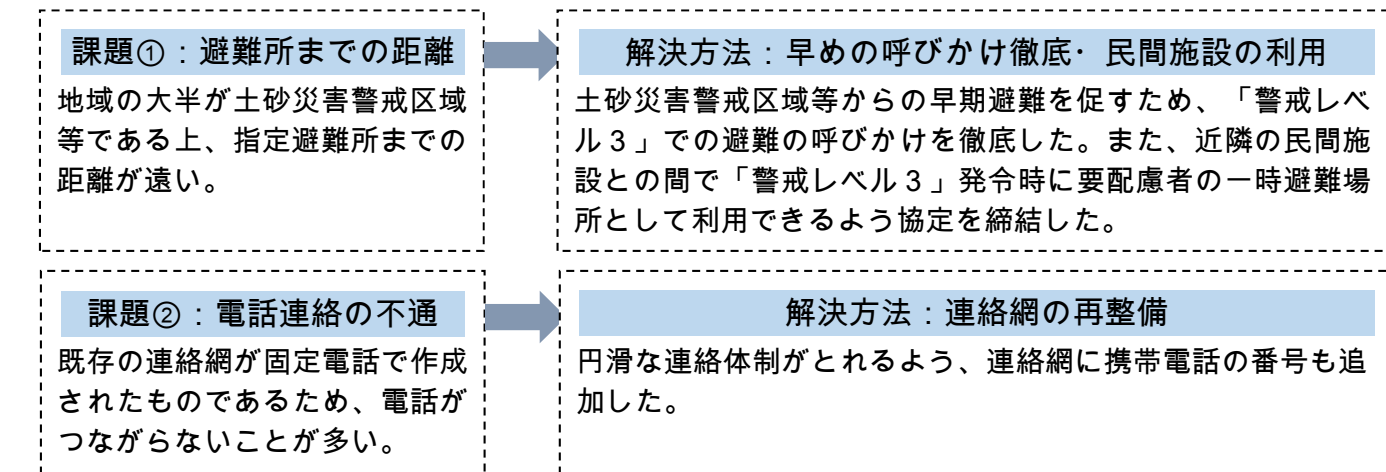
組織の特徴

- 避難訓練や防災講演会など防災活動を定期的に行っている。
- 地域の大半が土砂災害警戒区域等である上、指定避難所までの距離が遠い。

1) 実施した取組



2) 体制づくりで明らかとなった課題と解決策

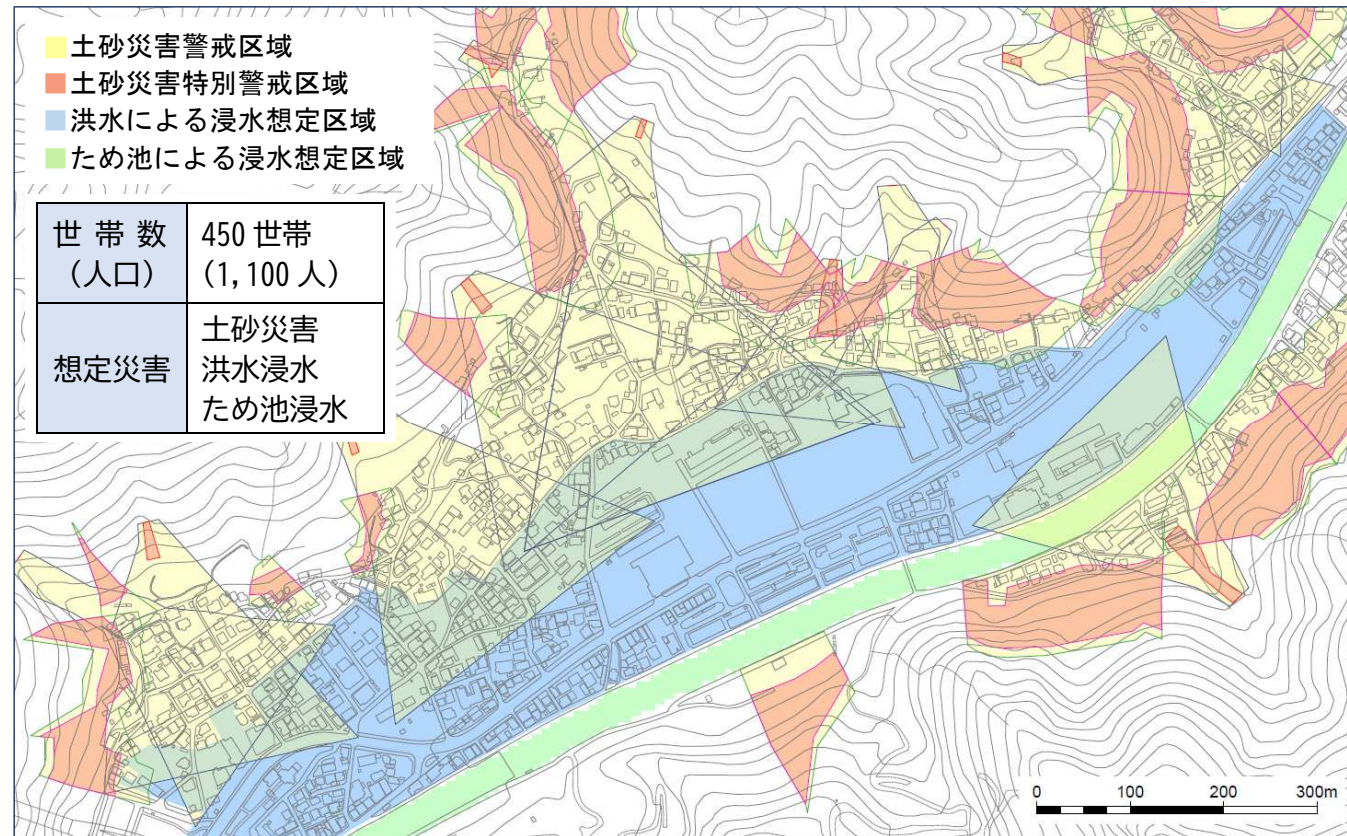


3) モデル組織独自の取組

●要配慮者への呼びかけ
 要配慮者に対し、避難を呼びかける仕組みを整えている。呼びかけの方法としては、副会長や役員が直接、要配慮者に連絡することに決めている。

町内会【三原市】中之町下町内会「防災会」

◆組織の基本情報



◆避難の呼びかけ体制（抜粋）

避難情報の入手方法	三原市防災メール / 防災行政無線 / ラジオ / 雨量計	
呼びかけ	順番	会長⇒役員⇒ブロック長⇒班長⇒班員
	担当者不在時の対応	次席の役員が順に対応
	タイミング	警戒レベル3
	範囲	全世帯
	優先度	要配慮者
	方法	SMS (ショートメッセージサービス) / 電話 / 戸別訪問
	内容	1人での避難が困難な方は、近所の人たちと一緒に避難してください。
完了確認	-	
他団体との連携	中学校	

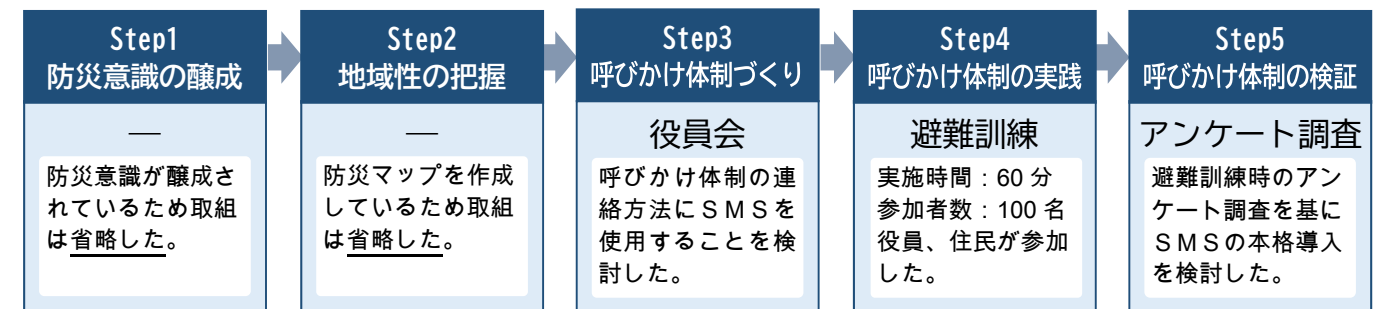
◆呼びかけ体制づくりに向けた取組

組織の特徴

- 地域内の中学校と連携し「防災キャンプ」を開くなど、数ヶ年にわたり継続した防災活動を活発に実施しており、地域の防災意識も醸成されている。
- 地域独自の防災マップを作成しており、全戸配布かつ、地域内の目立つ場所にも掲示している。



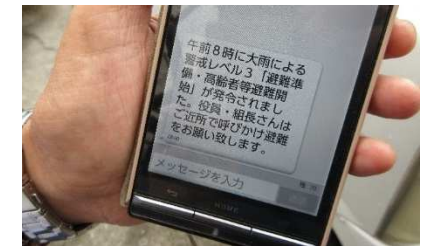
1) 実施した取組



2) 体制づくりで明らかとなった課題と解決策

課題：連絡手段
土砂災害警戒区域等に住む世帯が多いため、効率的に呼びかけを行う手段が必要である。

解決方法：SMSを用いた情報伝達
避難訓練時に一斉に避難を呼びかけることができるSMSを試験的に利用し情報伝達を行った。呼びかけの方法としては訓練参加者の8割が肯定的であったため、今後は本格的に運用を検討していく。



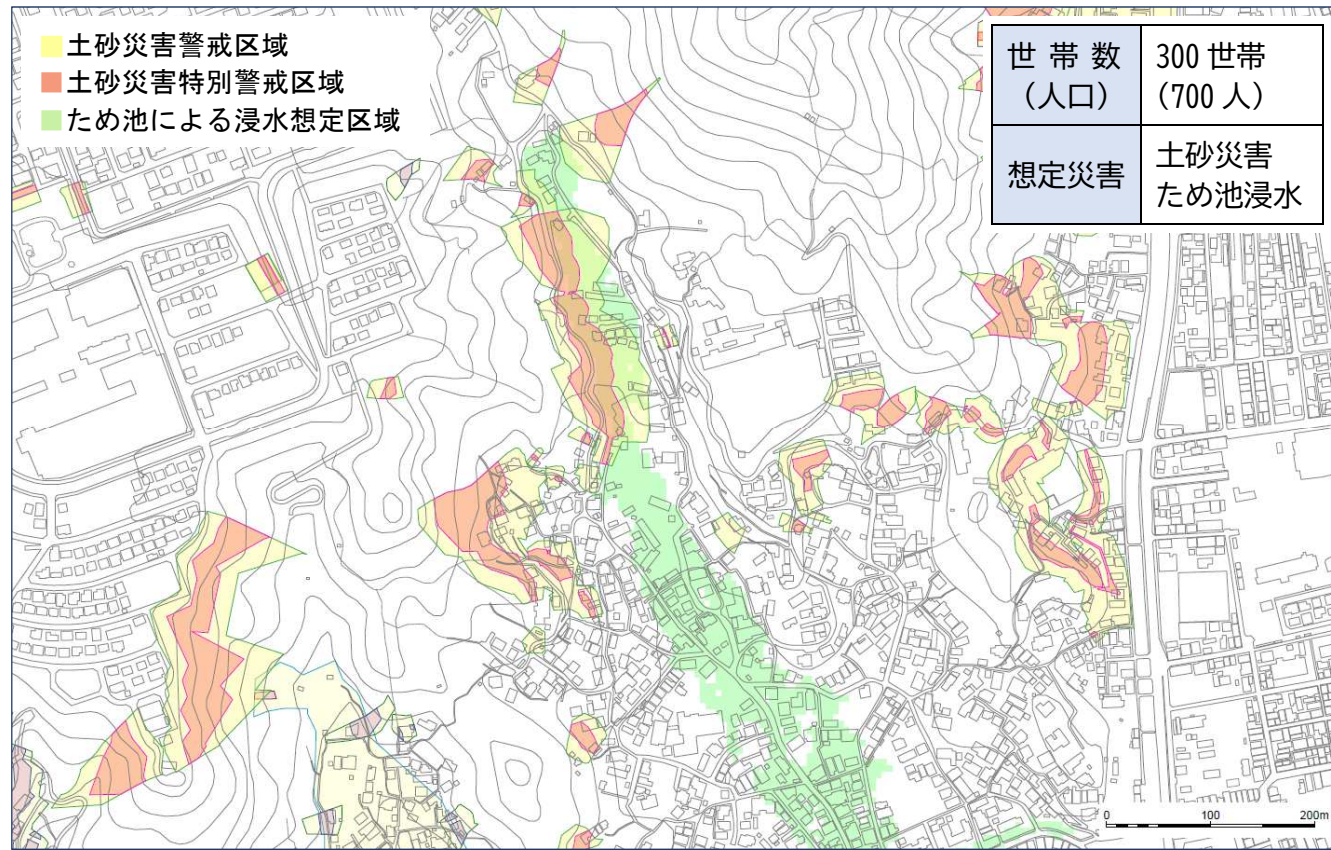
3) モデル組織独自の取組

●中学校との連携

自主防災組織と地域内の中学校が連携し、中学生・教員参加の防災キャンプを開催している。キャンプのプログラムには、HUG (避難所運営ゲーム)、クロスロードゲーム、ワークショップなどを取り入れ、地域の防災意識向上を図るとともに、将来の地域防災を担う人材も育成している。



◆組織の基本情報



◆避難の呼びかけ体制（抜粋）

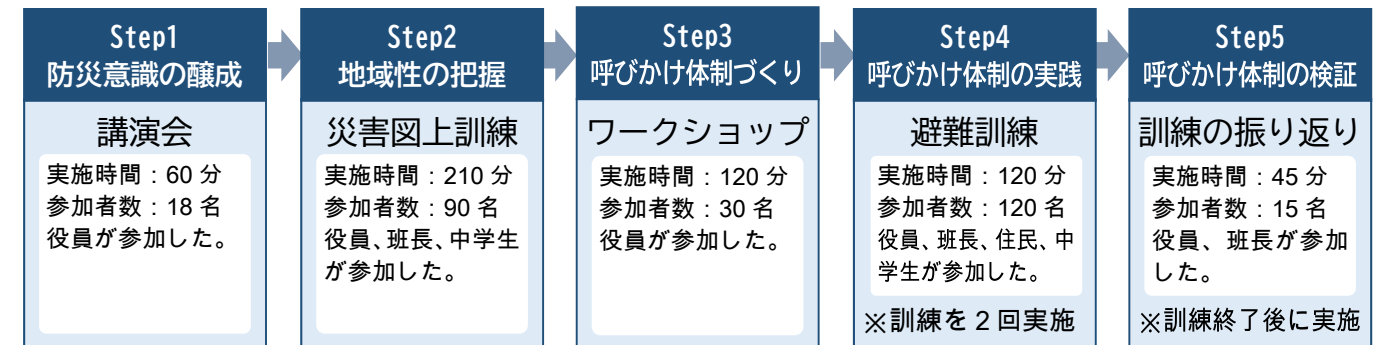
避難情報の入手方法	尾道市安全・安心メール / テレビ	
順番	会長→副会長→副書記他→班長→班員	
担当者不在時の対応	次席の役員が順に対応	
タイミング	警戒レベル 3	警戒レベル 4
範囲	全世帯	
優先度	災害想定区域内およびその周辺の班員	夜間は班長まで伝達
方法	電話 / 戸別訪問	
内容	災害の危険性を周知し避難を強く呼びかける。	
完了確認	班員名簿と避難所の名簿を突合	
他団体との連携	-	

◆呼びかけ体制づくりに向けた取組

組織の特徴

- 土砂災害警戒区域等（急傾斜地）が点在し、ため池の決壊による浸水が懸念される地域である。
- 古くからある集落であり、結束力も強く年1回の定期的な避難訓練を実施している。

1) 実施した取組

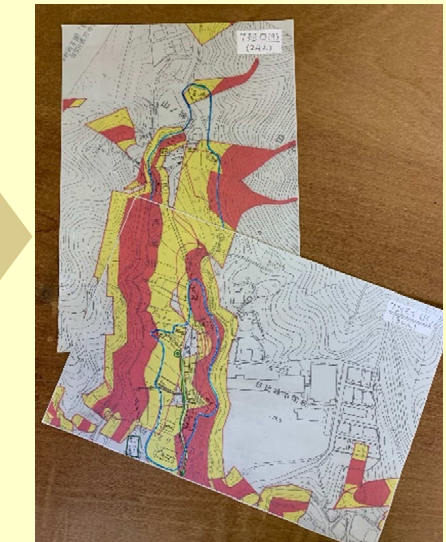
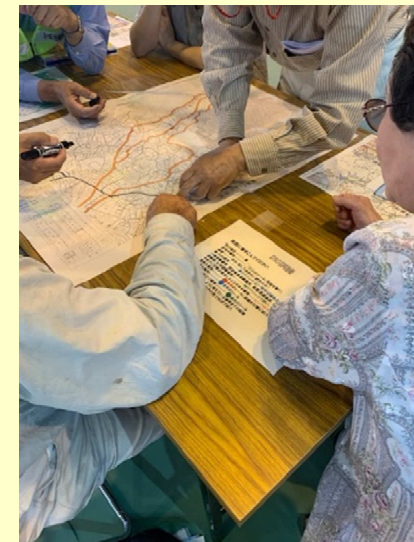


2) 体制づくりで明らかとなった課題と解決策

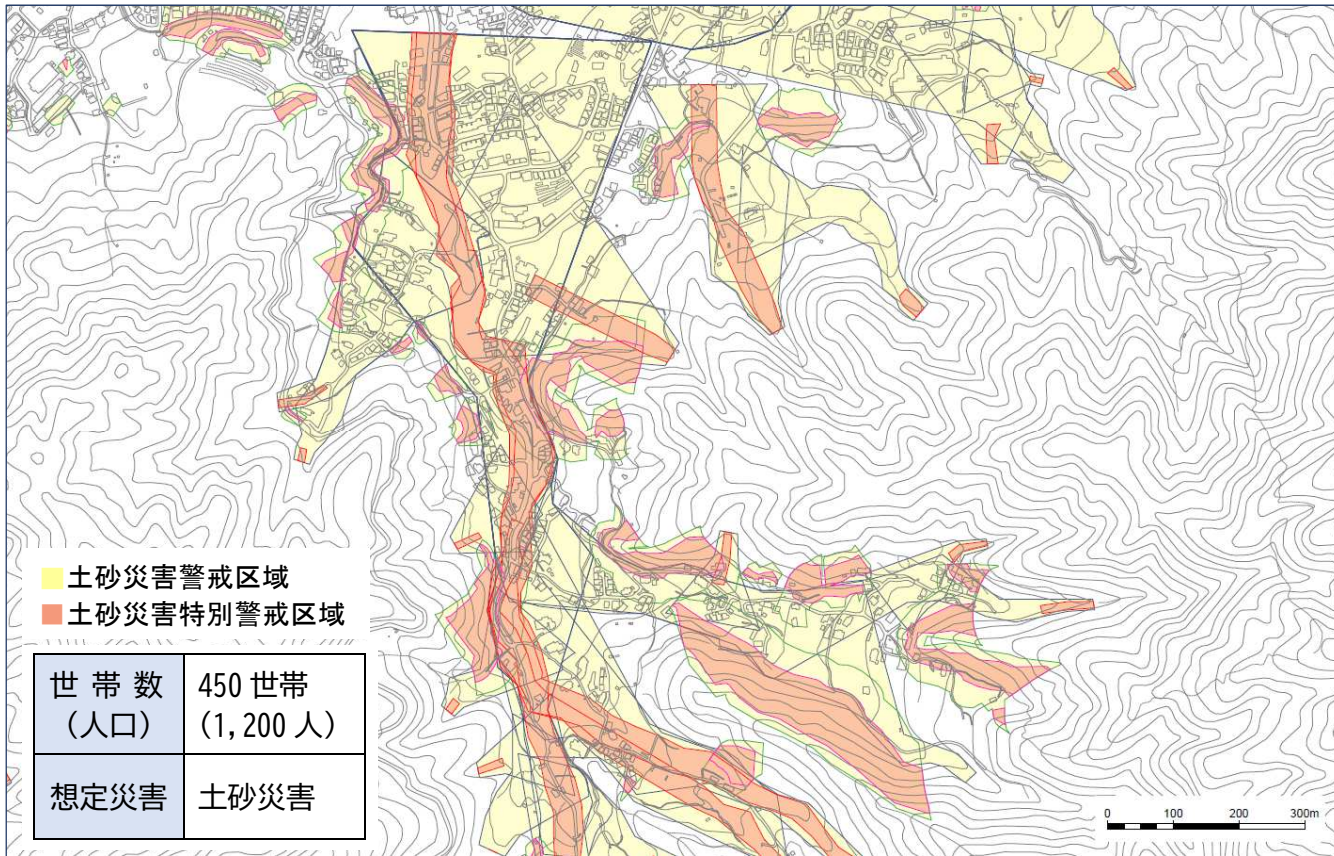
課題：避難所の収容可能人数 避難所に指定されていた中学校が災害の危険性があるため、避難所としての利用が不可となった。 加えて避難所として指定されている施設の収容可能人数が不足していることが分かった。	解決方法：新規避難所の確保 尾道市が採用している「うちの避難所登録制度」を活用し、対象施設と協議を重ね、新たな避難先を確保した。
--	--

3) モデル組織独自の取組

●班別防災マップの作成
災害図上訓練の実施により、地区内の危険箇所を把握した。また、班ごとに危険箇所の在住者を「防災マップ」により整理し、避難を強く呼びかける範囲を確認した。



◆組織の基本情報



◆避難の呼びかけ体制（抜粋）

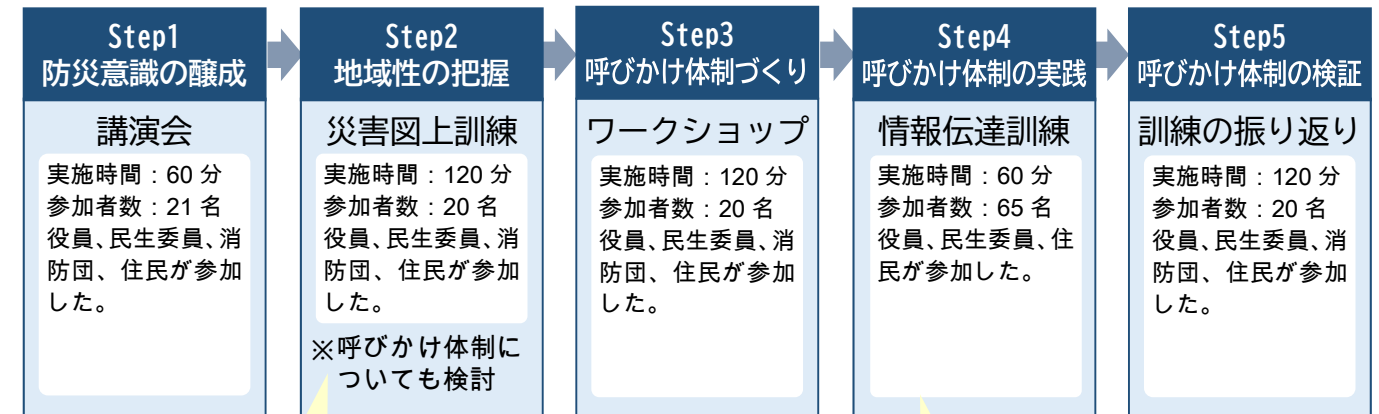
避難情報の入手方法	海田町防災メール / テレビ / インターネット / ラジオ	
呼びかけ	順番	会長→副会長・ブロック長→班長→班員
	担当者不在時の対応	事務局などの組織役員や次年度班長が代行する。
	タイミング	警戒レベル3
	範囲	全世帯
	優先度	要配慮者
	方法	電話
	内容	災害もありましたので避難をしてください。
	完了確認	班長→副会長・ブロック長→会長（呼びかけの順番と逆順に報告）
他団体との連携	民生委員 / 消防団	

◆呼びかけ体制づくりに向けた取組

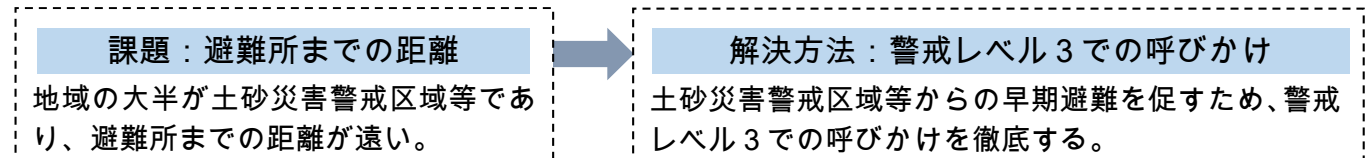
組織の特徴

- 毎年防災訓練を実施するなど、定期的に活動している。
- 地域の大半が土砂災害警戒区域等であり、指定避難所までが遠い。

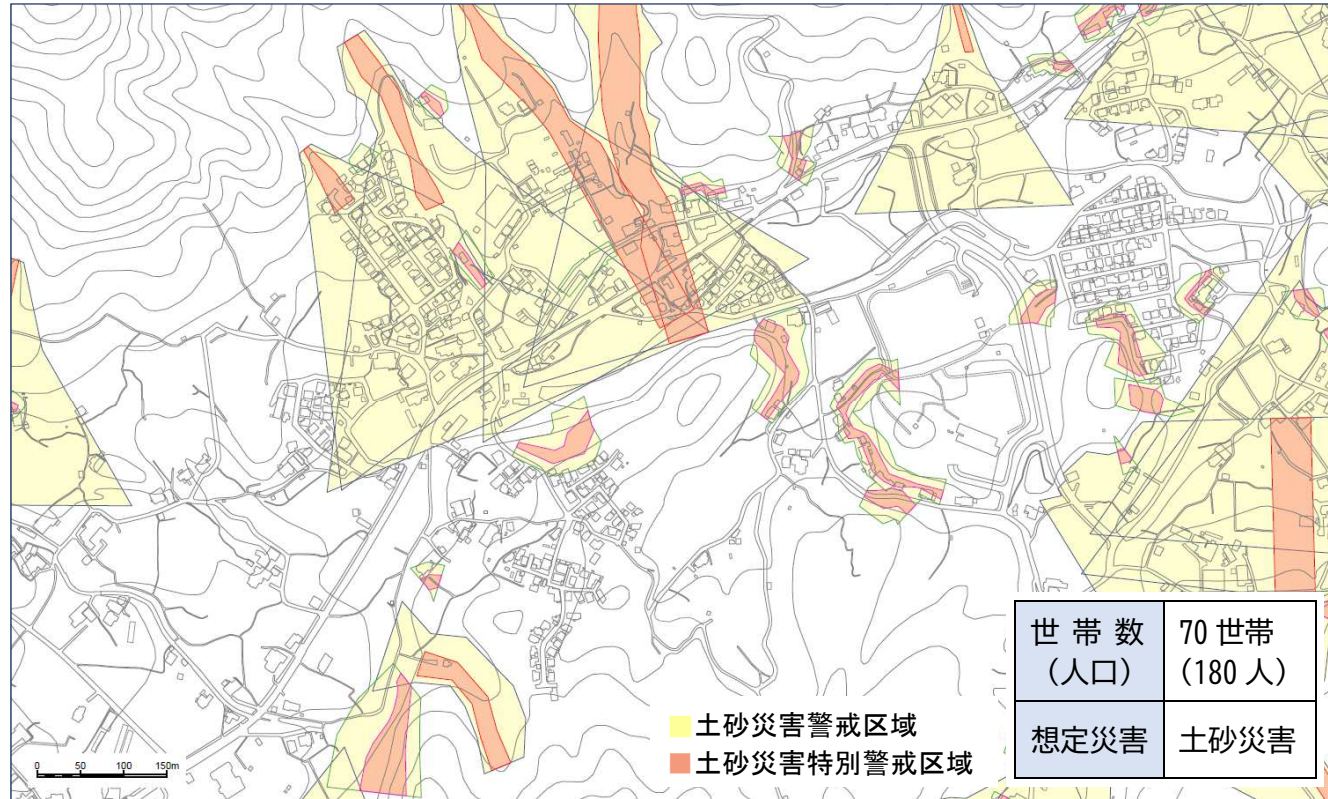
1) 実施した取組



2) 体制づくりで明らかとなった課題と解決策



◆組織の基本情報



◆避難の呼びかけ体制 (抜粋)

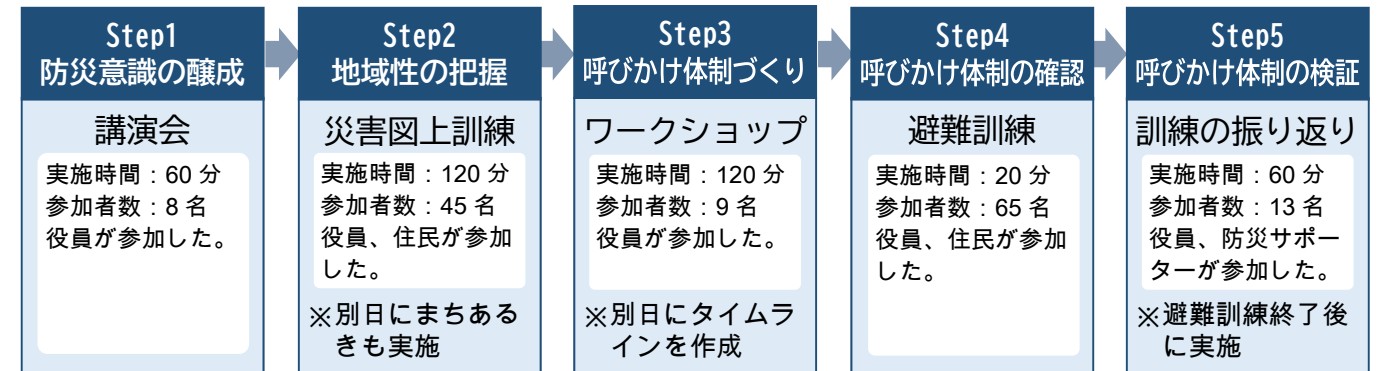
避難情報の入手方法		町から会長への電話連絡 / テレビ / インターネット / 町内放送	
呼びかけ	順番	役員一斉連絡⇒住民	
	担当者不在時の対応	防災サポーター	
	タイミング	警戒レベル3	警戒レベル4
	範囲	要配慮者	全世帯
	優先度	高齢者・一人世帯	-
	方法	電話 / LINE (役員間のみ)	
	内容	避難情報が発令されたので避難しましょう。一緒に避難しましょう。	食料や避難グッズをもって避難しましょう。
完了確認	各地区の役員が連絡し合う。 / 緊急連絡網と避難者を突合する。		
他団体との連携		-	

◆呼びかけ体制づくりに向けた取組

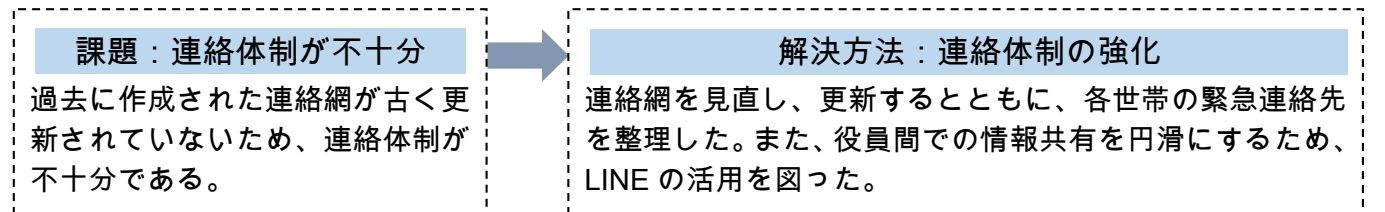
組織の特徴

- 発足したばかりの自主防災組織であり、防災活動の経験がほぼ無い。
- 団地全体が土砂災害警戒区域等に指定されている。

1) 実施した取組



2) 体制づくりで明らかとなった課題と解決策



3) モデル組織独自の取組

●防災マップ、タイムライン、防災カードの作成

現状の呼びかけ体制を確認し、災害図上訓練、まちあるきの気づきを基に、防災マップの作成を行った。また、「どのようなタイミング」で行動を開始し、「住民にどう動いてほしいのか」、「組織としてどのように動くべきなのか」を時系列に整理するとともに、全住民に防災カードを配布し、避難の際持ち歩くよう周知した。 ※防災カードの様式は51ページに掲載しています。



2.呼びかけ体制づくり参加者の感想



これまで避難したことがなかった要配慮者の方が避難してくれた。

電話に出ない家は戸別訪問で確認したことが良かった。

大人だけでなく、子供も一緒に避難訓練に参加してくれた。

想定より参加者が多く、皆の意識はかなり高いなと思った。

初めての「呼びかけ」避難訓練は、今後に役立つと思う。継続して訓練し、町内の意識と防災に対する全員の意識を高めていきたい。

防災についての話が活発にでき、地域の河川についての話など、知らなかったことが分かり、勉強になった。

固定電話での連絡がとりにくい。携帯電話で連絡したほうがより確実。

避難経路の上り坂が急傾斜のため、高齢者には避難時の負担が大きい。

避難の準備ができていないと大変そう。日ごろからの準備が大切。

これまで班で集まることはなかったが、班独自で呼びかけ避難について検討する場を設けるなど、地域の繋がりづくりにも役立った。

町内会に入っていない人への対応をどうするか。

早めの呼びかけの重要性が分かった。

訓練は1回～2回でなく、たびたびやった方が良いと思う。

早めに車で移動できるうちに避難しておくことが大事だと思った。

今回の訓練を契機に、来年度以降も継続して防災訓練に取り組んでいきたい。

呼びかけ開始から避難完了まで、予想以上に時間がかかった。

